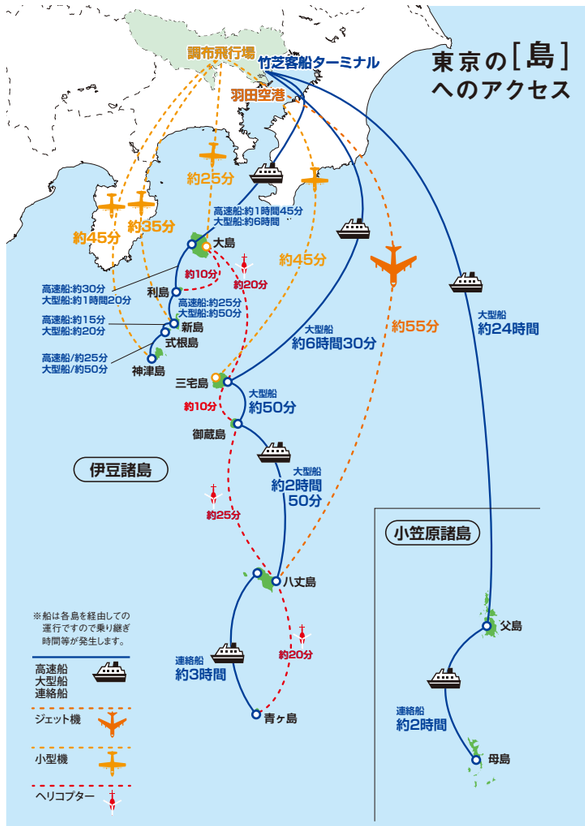
Access to TAMA SHIMA

東京の[多摩]へのアクセス

※各交通機関の所要時間は標準的なもので、時間帯や天候、混雑状況などにより異なります。
※羽田空港からのバス所要時間は第2ターミナルを基準にしております。
※本誌掲載のデータは2020年10月末のものです。発行後にデータが変更になる場合がありますので、お出かけの際には電話等で事前に確認されることをおすすめいたします。
なお、本誌掲載内容による損害等は補償いたしかねますので、あらかじめご了承くださいますようお願いいたします。

東京の[島]へのアクセス



東京の多摩と島の観光情報サイト

TAMASHIMA.tokyo

（サイトイメージ）

〈TAMASHIMAのサイトやSNSへのアクセスはこちらから〉

TAMASHIMA 検索

@tamashima.tokyo

tamashima.tokyo

人と人との距離を確保しましょう

●新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、観光施設の営業時間等が変更となっている場合があります。
お出かけを計画の際は、各自治体・施設の公式ホームページなどで最新情報をご確認ください。

●島しょ地域では、観光客の受入にあたり独自のガイドラインを作成している場合があります。
来島を計画される際は、事前に自治体・観光協会のホームページをご確認ください。

お問い合わせは、TAMASHIMA.tokyo 事務局（東京観光財団内）まで　電話／03-5579-2682　E-mail／information@tamashima.tokyo

東京でみつけた。島

八丈島

標高854mの八丈富士の尾根を歩く「お鉢巡り」からの眺めは壮観。雲に導かれる、まさに“天空の道”だ。

流人文化の歴史を伝える玉石垣がある大里地区。横間海岸から一つずつ運ばれたという玉石が整然と並ぶ。

ジャージー牛のミルクはチーズやヨーグルトなどに加工され、島にあるカフェや飲食店などで味わえる。

東京から東京の島へ。息をのむ光景に目を奪われる。

東京なのに、東京じゃない。そんな風景に出会える場所がある。11もの島々からなる東京の離島だ。火山島特有の荒々しさをたたえた島々は穏やかな瀬戸内海の島やサンゴから生まれた沖縄の島とは全く異なって見えるだろう。外洋に点々と浮かぶ東京の島々はその厳しい自然環境ゆえ、どの島も驚くほどダイナミックな景観を有する。だがそこには昔ながらの人の営みがあり、島独特の歴史や文化が脈々と育まれてきた。

唯一、ANAが就航する八丈島は、羽田からわずか1時間足らずの近さながら、雄大な山並みと黒潮の青い海に囲まれた島だ。島の西側に鎮座する「八丈富士」からは眼下に広がる大パノラマに出会い、島の東側にある三原山の麓からは海が見下ろせる絶景の露天風呂や鬱蒼とした森に囲まれた秘湯まで7カ所もの湯浴みが楽しめる。また、江戸時代より流刑地となった八丈島は、流人らによって持ち込まれた技術で生まれた焼酎や黄八丈といった島を代表する文化を今に伝える。食の豊かさは東京の島々の中でも群を抜いており、特に険しくも豊かな自然の中で放牧されるジャージー牛は海のミネラルをたっぷりと含んだ草を食み、とびきり濃く甘いミルクを生み出す。東京の島で出会える〝初めてづくし〟の今までにない魅力に、誰もがきっと心奪われることだろう。

八丈島から船かヘリコプターを乗り継ぐ。断崖絶壁、まるで要塞のような青ヶ島は、死ぬまでに見るべき絶景に日本で唯一選ばれた。

自転車で回れるほどの小さな島に異なる泉質の温泉が2つも。潮の満ち引きで入れる海中温泉は、まさに秘湯と呼ぶにふさわしい。

島の中央には"御神火"と崇められる活火山の三原山、200万年前の噴火で誕生した筆島など、火山の名残が散りばめられている。

国内2例目となる「星空保護区」認定を目指す神津島。夜は天から降り注ぐきらめく星空に包まれることができる。

島全体が御神体ともいわれる利島。玉石の階段の上には祠があり、宮塚山が鎮座する。島民の原始的な信仰に触れられる美しい場所。

鬱然と生い茂る森と清らかな水に包まれる御蔵島の周囲には野生のイルカが多数棲息。高確率でドルフィンウォッチングが楽しめる。

真っ白なロングビーチに絶えず打ち寄せるビッグウェーブ。昔からサーフポイントとして世界的にも知られる新島の海の色は別格。

美しく、険しい海に囲まれた多彩な表情を見せる、7つの島々。

大きさも人口もさまざまな東京の島々は、歴史も文化も景観も異なるため、一括りにできないほどの多彩な魅力を持っている。たとえば、東京・竹芝桟橋から高速船で2時間ほどで行ける大島、野生のイルカが多数棲息する御蔵島、島民約170人という日本一人口の少ない青ヶ島、世界遺産にもなった父島、母島は24時間もの航海の先にしか到達できない。そのどれもが東京の島であり、そんな魅力的な場所が東京にあるということを知らない人もまだまだ多い。

そんな東京の島々が共通していることといえば、東京とは思えない驚くほどの透明度で、緑とも青とも紺碧とも、どんな絵の具でも再現しきれない美しい海に囲まれていることだろう。ある種、隔絶された島の暮らしは大きな時代の変化から守られてきたものの、たびたび来襲する台風や激しい風や波の影響により、都度、変わらざるを得なかった。時に穏やかな凪の海は豊かな漁場にもなるが、時に海岸線が形を変えてしまうほどの威力を持ち、一度海が荒れれば船の欠航がしばらく続いてしまうこともある。けれど、そこにある島の自然は、訪れる人を拒むことなく、温かく受け入れてくれる。

砂浜を歩けばただ波の音しか聞こえない。ドライブすれば、すれ違う車も少なく島を独り占めしている気分に。時が止まったかのような島風情が感じられることだろう。都会を離れ、自然と戯れ、静かな時間を過ごす。そこにある、あるがままの自然の中に身を浸す時、都会では決して味わえない時間の流れを感じることだろう。何もしない時間の贅沢さに気づくはずだ。

火山の噴火によって生まれたひょうたん山。新しい大地には草が生え、少しずつ再生を始めていた。

雄山中腹で見ることができる、骨のように白くなり立ち枯れた木々の姿は噴火の凄まじさを物語っていた。

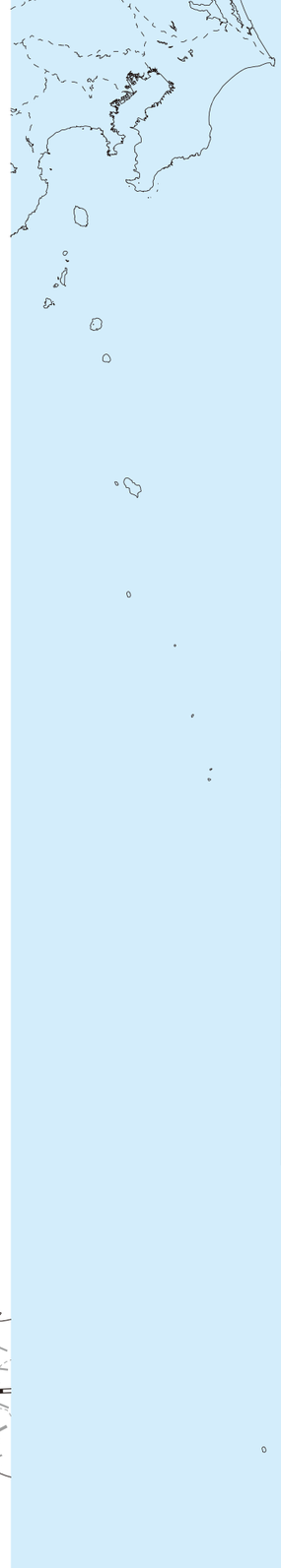
大路池にある巨樹「迷子椎」は火山の神の宿り木として、島の噴火を避けて生き延びてきた証人だ。

絶えず繰り返す自然の営みを体感。黒々とした新たな大地を踏みしめて。

有志以来、たびたび繰り返す噴火により、生々しい爪痕を至る所に残す三宅島は、東京の島の中で最も活発な火山活動で知られている。20世紀だけでも4回もの噴火があり、一番最近に起きた2000年の大規模な噴火に見舞われた際には、全島民約3800人が島外避難を余儀なくされた。島へと戻ることができたのは4年半後の2005年のこと。島民たちが再び島へと戻ってくると、変わり果てた島の姿とともに、あるがままの島の姿がそこにはあった。現在、噴火から20年が経ち、草も生えぬ黒い大地だった場所に少しずつ植物が芽吹き始め、火山ガスによって立ち枯れてしまったという真っ白な木々の足元には再び葉が茂り、森が再生しつつある。今は、すさまじい破壊の後に新たに生まれ変わろうとするその過程の真っ最中なのだ。

たとえば、大量の火山灰が降り注ぎ、一日でできたともいわれるひょうたん山の景色はただただ立ち尽くすしかない。椎取神社では泥流に飲み込まれた鳥居が残っており、その圧倒的なまでの自然の威力をひしひしと感じる。また、2000年以上前の水蒸気爆発でできた火口湖「大路池」の周りには原生林が見事に再生し、現在、200種類以上もの小鳥が生息する。溶岩に覆われた黒い大地は、波や風による侵食によって、見事なまでの造形美を創り出し、ほかの島とは一層異なる風景を醸し出している。

噴火によって生まれた新たな島の景色は険しく、神々しく、見るものの感情を容赦なく揺さぶることだろう。火山とともに生きる島のありのままの姿を目に焼きつけておきたい。



東京でみつけた。島

小笠原諸島

父島・母島

毎年12月〜5月頃がザトウクジラのシーズン。大迫力の姿を洋上だけでなく陸からも目にすることができる。

今にも動き出しそうなガジュマルの巨木が生い茂る深い森や山のトレッキングで手つかずの自然に触れる。

はるばる海を越えて、その先へ。
まだ見ぬ景色を求めて24時間の船旅。

父島・母島への旅は何もかもが初めてづくしとなるだろう。東京・竹芝から24時間、丸一日かかる長い船旅で洗礼を受けて、まずは父島へ。そこからさらに2時間船に乗り、最果ての母島へ。ブラジルに行くほどの時間を要してたどり着いた島では、歴史に翻弄された証である遺産を目にし、目に沁みる青さの〝ボニンブルー〟の海ではクジラやイルカ、ウミガメが悠々と泳ぎまわり、独自の進化を遂げた動植物に出会うことができる。世界遺産にも登録された父島・母島に広がるどこにもない特別な風景を、いつかは見てみたいと世界中の人々が憧れる場所になっている。

遠くの異国の地へと赴き、様々な景色や文化に触れた経験を経てもなお、初めて見る景色が確かにここにはある。これらも知られざる、もうひとつの東京なのだ。

父島

母島

東京でみつけた。山

東京で唯一「日本の滝百選」に選ばれる払沢の滝（檜原）

奥多摩・御岳山・秋川渓谷を歩く

風情のある散策路が楽しめる御岳山（青梅）のロックガーデン

樹齢約600年ともいわれる都指定天然記念物の古里附のイヌグス（奥多摩）

ヌルヌルとした泉質が人気の秋川渓谷 瀬音の湯（あきる野）

〝すぐそこにある東京〟で味わう大自然
美しい自然、澄んだ水を五感で感じる旅へ

ビル群が立ち並ぶ大都市・東京。同じ都内に、爽やかな風が吹き抜け、木々を揺らす音が耳に心地よい、美しい大自然があるのをご存じだろうか。

電車や車で西に走れば、車窓を流れる灰色の風景は、やがて緑や青が埋め尽くしていく。

透き通った風が吹き抜ける名瀑、四季折々美しい姿で魅せる山々、生命力溢れる巨樹、渓谷沿いに湧き出す天然温泉などが点在する、東京の山間地域が広がる。

澄んだ空気を胸いっぱい吸い込めば、渇いた心を、そっと潤す時間がここにある。

身も心も芯からリラックスできる「贅沢な時間」を、〝すぐそこにある東京〟の山で過ごしてみませんか。

ジョウビタキ